

## 第51号

平成28年  
5月1日

## 題字

植木 満  
初代東進会会長



## 発行所

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高  
進修同窓会東京支部〕

## 発行人

東進会会長 飯塚 哲哉

事務局 東京都中央区日本橋茅場町2-4-6 松田ビル5階  
君山法律事務所 君山利男(昭和48年卒)  
TEL03-5640-0289 FAX03-5640-0269  
E-mail:k-toshinkai@arion.ocn.ne.jp



提供 青木功(フォトグラファー 昭和50年卒)

- 「まさかの坂がありました」  
関東東北豪雨を体験して  
鶴見 美智子(昭和50年卒)

- 「人工知能の話」  
機械知能は人を超えるのか  
櫻井 成一朗(昭和55年卒)  
第4回アカンサスクラブ講演録

- 新企画リレー放談  
「つなぐ」に続いて「縁」  
花上 克宏(昭和50年卒)

- 平成27年度大学合格者  
進修同窓会だより  
東進会会長 飯塚 哲哉(昭和41年卒)

- 平成28年度総会・懇親会ご案内  
とき 6月12日(日)12時から  
ところ 学士会館 210号室



# 「まさかの坂」がありました

〜関東東北豪雨を体験して

鶴見 美智子 (昭和 50 年卒)

「取りあえず逃げてみようか？」  
「それがいいね。」

これが 平成 27 年 9 月 10 日朝に  
夫と交わした会話でした。

常総市に住んで数十年。東日本大震災では家具が倒れるなどのダメージはありましたが、この時にはすっかり普通の平穏な生活に戻っていました。しかし、この日だけは違ったのです。前日から気象庁は、異常気象の可能性を声高に伝えていました。事実、二つの台風が近づいたために滝のような雨が降り続いていたのです。

ニュースによると茨城から栃木につながる線状降水帯の位置はちょうど鬼怒川の場合に重なって見えます。この事実からやはり心配なのは洪水でした。私の家は鬼怒川の水門から歩いて5分ほどのところにあります。幼少時、近所にあった母の実家で覚えていたのは大人の背の高さ程にある洪水時の壁のしみの跡。平成になつてからもここでは、あと数十cmで越水という事もありました。間近で

見たこの水の流れの記憶がフラッシュバックしたためでしょうか。夕食後はずっと国土交通省の『川の水位情報』のホームページを見て、次第に増えていく鬼怒川の水位に微かな不安を覚えていました。

明くる10日も朝から激しい雨。市の防災無線は何かを繰り返し訴えてはいるけれど雨音にかき消されてその内容がまったく聞き取ることができず、余計に苛立ちが増している自分。そして、常総市石下地区の若宮戸では鬼怒川が越水したというニュース。『川の水位情報』を見ると鬼怒川の水位が10分間に10cmずつ増え、殆ど土手を越えようとしていました。その他の情報を総合してみても自宅に留まることが一番安全とは言えず・・・そのうちに勤務先も臨時に休みになったので、冒頭の会話のように取りあえず自宅から離れてみようと思っただけです。

しかし、この時にもまさかの惨事にはならないだろうという甘えはありませんでした。二階に運んだのはテレビだけ。避難といっても二泊ほどの着替えだけを持ち、私の車に夫と乗っ

て高台と思われるつくば市へ移動しただけでした。

この時点ではまだ鬼怒川の上三坂での決壊には至ってなく、自分たちの決断の是非についてすっきりしないものが心に残っていました。それは、

「近所の方々や近くの親戚にも洪水の危険を知らせるべきだったのではないか？」

ということでした。にも関わらず、心の中では、そこまでパニックになつて伝えることではない。まさかそんな非現実なことがあるわけはないから・・・と考えていた自分もいたのは確かでした。

しかし答えは約二時間後にあっさりとは出ました。ショッピングモールであてもなくふらついていた時に東京の友人から

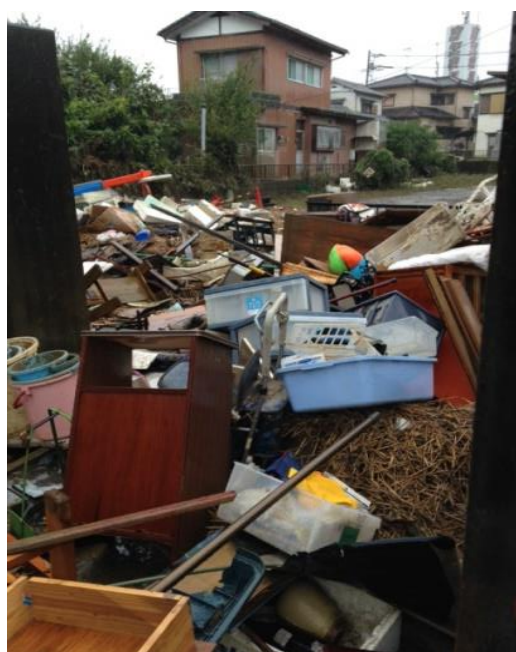
「テレビで見ると常総市が震災時の津波のようになっていて、無事ですか？」との電話が入ったのです。急いで車の中のテレビで状況を確認し、鬼怒川の決壊を初めて知り、言葉を失ったのでした。

全壊	53棟
大規模半壊	1578棟
半壊	3485棟

常総市の水害による家屋倒壊  
(平成 28 年 3 月 3 日現在)

この水害で常総市ではかなりのダメージを被りました。

わが町内も鬼怒川の支流である新八間堀川の逆流と上三坂の決壊の水が合流した結果、2mを越す濁流に囲まれてしまいました。写真は近所に流れてきた膨大な粗大ゴミのほんの一部です。



また、逃げ遅れた方々が自衛隊のヘリやボートに助けられた光景は記憶に残っていることと思います。私はこの中に何人かの知人がいた事実を後から聞いて知りました。あの時まさかという気持ちを振り払って、洪水の危険性を知らせていれば少しは違った結果になったのではないかと後悔の念がつのります。

『想定外の出来事だった』と人はいいます。確かに自然の力は測り知れないものです。どんなことが起こっても不思議ではない。

**まさかの坂はある**  
そんな気持ちで毎日を過ごす大切さを、身をもって学んだような気が

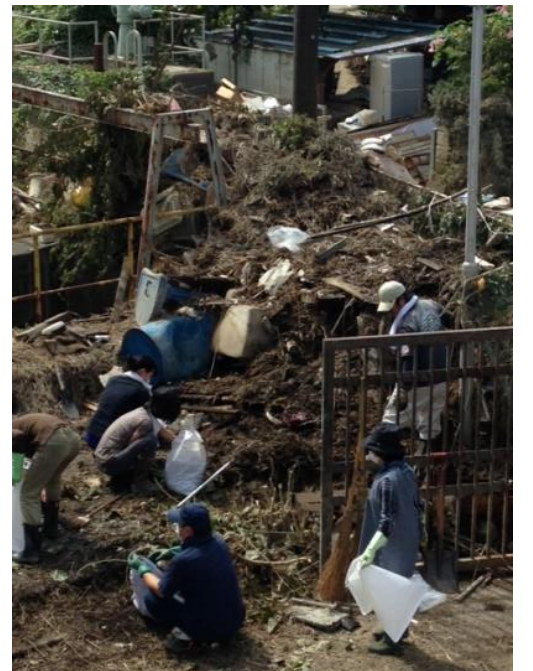


しました。そして、これらの体験を住民・行政が手を携えて未来のために生かしていくことが重要だと思います。

一つの例としては新潟県の三条市で作成された平成16年の水害での被害を参考にした『逃げどきマップ』です。これは、いつ、どのタイミングで避難するかを記した洪水ハザードマップです。特徴として、避難所だけが記されている従来のマップとは違い、自分の身はまず自分で守るという意識を高めていることがあげられると思います。

浸水の速さや程度、または家屋の構造(木造、鉄筋等)の違いで逃げるタイミングが微妙にずれてくる、それを分かりやすく地図に表した点は参考になります。そして、その際洪水前の避難が一番としつても災害状況に応じて時には自宅二階に留まることも一つの方策としている点などは画期的だと思います。もちろんこれはあくまでマニュアルで、実際の情報は即して考えるべきですが、市民に分かりやすく実際に使えるマップを私達はまず作成することが必要ではないでしょうか。そして、様々な自然災害を想定して高齢者、障がい者を混じえた地域ぐるみの避難訓練などができればより良く対処できるでしょう。

早めに避難した私は実際の濁流が迫りくる恐怖を経験することはありませんでした。しかし、四日後に一時的に自宅に戻った時の家の惨状を未だに忘れることはできません。水没した夫の車、泥まみれの床、ひっくり返った冷蔵庫、縦になった何枚もの畳、タンスも仏壇も水にふやけた状態・・・水に浮かんだテーブルの上のティッシュだけが濡れていなかったのが奇跡のようでした。



しかし、良い意味でのまさかも私達は経験できました。それは多くの人々の温かい支援の気持ちです。土浦一高時代の頼もしい同級生達をはじめ、職場の元・現同僚、友達、ボランティア仲間、親戚、そして市役所でお願ひしたボランティアさんたち等が大勢駆けつけてくださいました。メチャクチャになった泥だらけの家の掃除や消毒、トラックでの粗大ゴミの運搬、そして膨大なわらゴミを捨てる作業などが二週間続きました。これらはどれも援助なしではできませんでした。また、電話や手紙・メール等での励ましの言葉からも前に進む力をいただきました。この場を借りて厚く感謝申し上げます。

最後に、常総市の復旧・復興はまだスタートラインに立ったばかりです。近所を歩くとやむなく空き地になった箇所が目立ち始めました。以前の戸数の一割ほどが水害のために他市町村に転出していったという情報があります。高齢の方が多い地区でしたので、慣れない地での生活にご苦労されていることでしょう。反対にネコの『にかい』は私の職場の二階に濁流を避けて迷い込んできた新人(?)です。最初発見されたときは、飲まず食わずの状態でガリガリに痩せていました。今では立派に普通のネコになり、私達を癒してくれています。



ネコも人間も経験したまさかの出来事、これが水害でした。私達はこの事実を『ありえないこと』とせず、冷静に向き合っていく必要があることを学ばせてもらいました。

### アカンサスクラブのご紹介

大野金一名誉会長(昭和31年卒)の発案で平成26年から開催されています。講演会と懇親会を通して、いろいろな世代の卒業生の交流が目的です。次回は平成28年9月実施の予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。

#### アカンサスクラブ開催実績

開催日	テーマ	講演者	卒業年
第1回 平成26年4月16日	「1時間で覚える英会話」	大野 金一	昭和31年
第2回 平成26年10月20日	「蝶のように舞い、鳥の目で世界を見てみたい・・・、そんな子供の頃の夢が今叶う！ー純日本製マルチローターヘリコプター『ミニサーバーヤー』いよいよ発進！！ー」	酒井 学雄	昭和56年
第3回 平成27年3月11日	「茨城県の現状と今後の可能性に関して」	青山 大人	平成9年
第4回 平成27年9月16日	「人工知能の話ー機械知能は人を超えるのか」	櫻井成一朗	昭和55年
第5回 平成27年12月16日	「なぜ障害のある人が農業をするとみんなが幸せになるのか？ー関係のイノベーションが社会を変えるー」	五十嵐立青	平成9年
第6回 平成28年3月16日	「つくばエクスプレス最強のまちづくり」	塚本 一也	昭和58年



# 人工知能の話

## 機械知能は人を超えるのか

櫻井 成一朗 (昭和 55 年卒)

今、人工知能は第三次ブームと呼ばれています。第一のブームは人工知能研究の誕生の時で、第二のブームは私の大学院時代、エキスパートシステムが全盛で、日本では第五世代コンピュータの開発を目指して、官民による多額の投資が行われました。多額の投資にもかかわらず、第五世代プロジェクトは一般の人々の期待を裏切ることになり、その後、人工知能研究は冬の時代を迎えます。

この冬の時代に突然現れたのが Google です。Google はインターネット時代の覇者として誰もが知るところですが、Google が人工知能研究に光を灯したのです。インターネットにおいては、Google 検索は必須のものであり、Google 検索がなければ、PC はもちろんスマホやタブレットがこれほど利用されることはなかったでしょう。Google は、インターネット技術に関して、検索エンジン以外にも様々な貢献をしており、smart TV の開発を通じてクラウドコンピューティングを実現し、ビッグデータの処理にも多大な貢献をしています。現在の IT 業界において、先端分

野を開拓していく Google ですが、人工知能研究にも様々な貢献をしています。検索エンジンも人工知能研究の一つですし、最近では、自動運転自動車の開発や深層学習の開発あるいは、深層学習を応用したアルファ碁で有名になりました。

アルファ碁は現在最強の囲碁プログラムであり、先日、世界のトップレベルのプロ棋士に 4 勝 1 敗で勝利しました。深層学習とは、機械学習の一つの方法で、大量データに対して、多層のニューラルネットワーク（人工神経回路網）を用いて学習する方法です。Google を筆頭に、様々な人工知能技術が開花して、人工知能は第三次ブームに突入したわけです。

さて本日のテーマである「機械知能は人を超えるのか」についてですが、人工知能やロボットが人を超えるのを我々はシンギュラリティと呼んでいます。本日はシンギュラリティと我々の未来についてお話ししたいと思います。

シンギュラリティという言葉はここ 10 年位で使われるようになり、元来は物理における特異点のことを意味しますが、人工知能の世界では、機械知能が人を超えてしまうことをシンギュラリティと呼んでいます。私が最初にシンギュラリティを映像で見たのは、半世紀近く前に放映されたサンダーバードです。昨日も深夜にたまたまサンダーバードを見ましたが、ピアノ線が見えることや、

科学考証に若干難があることを除けば、今でも十分に鑑賞に耐えられる映像とストーリーであることを確認できます。

サンダーバードの一つのエピソードに「ロケット太陽号の危機」があります。このエピソードは、太陽の重力から脱出できなくなった太陽号を救出するのですが、今度は太陽号を救出したサンダーバード 3 号が太陽の重力から脱出できなくなり、地上から放射線を照射してサンダーバード 3 号を救出するというあらすじです。

このエピソードに登場するのが、ブレイマンというロボットです。宇宙船の軌道計算用にコンピュータを持参したつもりで、誤ってブレイマンを持参してしまいました。ブレイマンは役に立たないと思っていたのですが、他に方法がないので、ブレイマンに軌道計算を行わせたら、3 号の救出に無事成功します。

そのエピソードで、ブレイマンとチェスで対戦すると、機械は人間に勝てるわけがないと思っていたのに、あっさりとブレイマンに打ち負かされるのです。人工知能の第一次ブームの時に、チェスなら人間に勝てるだろうと思われていたのですが、現実には 90 年代までコンピュータは人間に勝てず、サンダーバード制作当時のコンピュータは人間にまったく歯が立たなかったのです。このエピソードでは、科学者が不満顔で終わ

っており、その後日談はありませんが、今思うと、シンギュラリティはこのようにして発現するのかという例にはなっていないと思います。

ここで、人工知能は何かという話をして良いのですが、時間も限られておりますので、人工知能、特にシンギュラリティが描かれている映画について取り上げてみたいと思います。

私は高校時代には映画部に所属する程の映画好きでしたが、当時は割引券をもらっただけで映画鑑賞する機会には恵まれませんでしたが。最近では近所のシネコンで映画を鑑賞するのですが、人工知能を題材にした映画が目白押しです。人工知能専門家ならば、人工知能を題材にした映画を鑑賞せざるを得ないということ、人工知能を題材にした映画はなるべく鑑賞するようにしております。

人間対コンピュータというと、大ヒット映画の「ターミネーター」や「アベンジャーズ」のようにコンピュータが悪役として登場するものが多いと思います。「ターミネーター」や「アベンジャーズ」では、結局コンピュータは人間に負けてしまうので、シンギュラリティを扱っているとは言えないかもしれませんが、他にシンギュラリティを扱った映画としては、一昨年公開の「トランセンデンス」や昨年公開の「チャップリン」そして今年公開された「オートマタ」があります。



これらの映画では、コンピュータやロボットが人間を超越してしまうのです。「トランセンデンス」は、人を超越した機械によってどのような技術が進歩するのかが描かれ、「チャップリン」では人と同じように学習するロボットが描かれ、「オートマタ」は人を超えたロボットが描かれます。シンギュラリティをテーマにした映画がこれだけ短期間に何本も作成されるのは、シンギュラリティが絵空事ではないことを意味しているのかもしれない。

一方、現実世界に目を向けてみますと、最近では、IBM のコグニティブテクノロジーを銀行のオペレータ業務に応用する話が発表されています。コグニティブテクノロジーとは、IBM の言うところの人工知能です。日立は業務改善のための人工知能を開発し、人工知能に業務指示をさせるとのこと。このような現在の人工知能は、ビッグデータと呼ばれる大量データに基づいてもっともらしい判断を行うソフトウェアです。

古典的人工知能では知識を与えて推論させることで、知識を実現しようとしていたのですが、知識を与えることがとても難しく、その結果冬の時代になったわけです。これに対し、ムーアの法則によりコンピュータが指数関数的に進歩したことで、大量データを取り扱えるようになったので、知識を与える代わりに大量

データを用いることでそれらしい判断や応答が得られるようになったのが現在の人工知能です。もちろん、細かいことを言うと、ソフトウェア面での進歩も当然あるわけですが、この 50 年のハードウェアの指数関数的な進歩がそれほど驚異的だったのです。大量データに基づいた統計的手法により、スマホでの機械翻訳や音声認識等、まだまだ十分とは言えないものの、及第点の結果を得られるようになってきました。

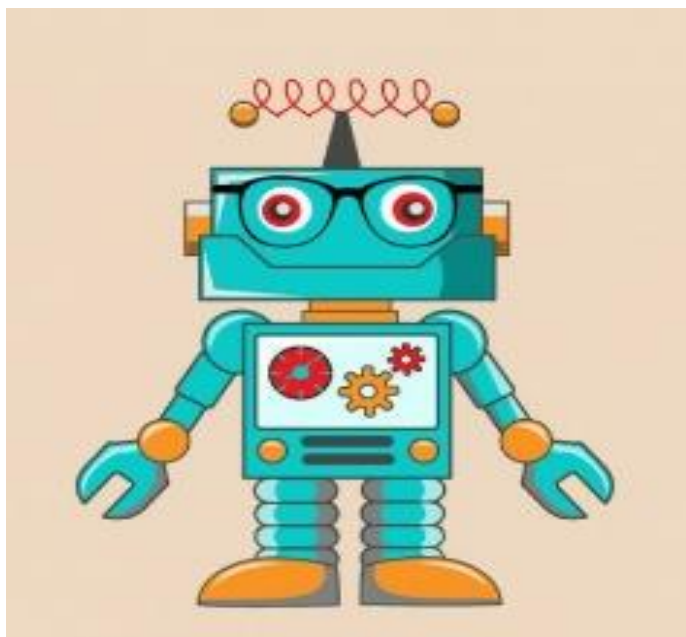
それでは、人工知能の将来はどのようなのでしょうか。未来学者のカーツワイルは 2045 年にもシンギュラリティが到来すると主張しています。Google のアルファ碁は世界のトッププロに勝利したことから、囲碁の世界ではシンギュラリティが到来したという専門家もいます。将棋も同様です。これらの現象はゲームだけのことでしょうか。

IBM のワトソンはアメリカのクイズチャンピオンになったことで、着目されたわけですが、知識量という点においては既に、我々はコンピュータに勝てません。インターネットに蓄積された知識が巨大だからです。したがって、クイズのような質問応答であれば、既に人を凌駕していると言っても良いでしょう。将来は、東大入試合格プロジェクトによって、人工知能が東大入試の合格点を取ることも夢ではないかもしれません。

このような人工知能の進展がもたらすのは光だけではありません。マイクロソフト創設者のビルゲイツや著名な物理学習ホーキングらは人工知能の怖さについて指摘しています。人がコントロールできない人工知能は何をしでかすかわからないからです。実際に、アルファ碁の打った手について、プロ棋士には理解できないものがありました。今回の 5 番勝負では、悪手のように見えた手がだんだんと良手であることがわかって、結局負けてしまうというのが繰り返されたわけです。コンピュータのハードウェアの進歩により、コンピュータは人間が把握できる以上の場面を考慮できるわけですから、人の理解を超えた人工知能を恐怖するのは半ば当然のことです。

人工知能が制御できなくなるのがなかったとしても、機械との競争の時代に突入するのは明らかです。自動運転が普及してしまえば、現在は人手不足のドライバーの職が奪われてしまうでしょう。職が奪われるのは、ホワイトカラーも例外ではありません。会計士やパラリーガルと呼ばれる法律事務職の職業が機械に代わられるだろうという話もあります。裁判官がコンピュータに代わることは難しいかもしれませんが、今すぐではなくても、検事や弁護士が機械に代わられる時代がやってくるかもしれません。人間がすべての判例を記憶するのは無理ですが、機械

ならすべての判例を記憶できるので、したがって、囲碁や将棋のように、人間が機械に勝利するのはやはり困難になるでしょう。人が機械と競争するのであれば、何年後かあるいは何十年後には、人はほとんどの分野において機械に勝てなくなります。人が機械と戦えば負けるのですから、人は機械と戦わなければならないのです。機械と競争するのではなく、機械と共生していくことこそが我々の幸福な未来を開く鍵となるのではないのでしょうか。



映画「スタートレック」の世界では、24 世紀の人々は働く必要がありません。無尽蔵のエネルギーとエネルギーを物質に変換する技術があるので、人の欲しいものは何でも労せず手に入ります。それゆえ、24 世紀には貨幣すら消滅してしまいます。

人々は、食べるために働くのではなく、趣味のためや人間性を高めるために働くのです。

こんな理想郷に登場する人型ロボットがデータです。私は主人公のピカード艦長とデータのやり取りをいつも楽しみに鑑賞していました。ピカード艦長はデータを信頼し、良き相談役として活用します。しまいは、ピカード艦長はデータの人権を政府に認めさせてしまうのです。ピカード艦長は良き相談者としてデータを信頼していますが、重要な意思決定は自ら行います。人の世を作るのは人自身なんだという製作者の意図の表れなのだと思えます。

このように、「スタートレック」では人工知能をうまく活用しながら、人が主体的に社会を築いていく理想が描かれているのです。人工知能やロボットの進歩によって、良い意味で働かなくても済むようになります。富をどう分配するかという問題はありますが、より良い社会を築くことはできるはずです。次世代に理想郷を提供できるように、今は努力を積み重ねることが我々に課せられた責務であると思えます。

(明治学院大学 法学部教授)

第4回アカンサスクラブより

平成27年9月16日午後7時から  
ザインエレクトロニクス株式会社  
会議室で行われた講演の抜粋です

平成27年度大学合格者

東大合格者の戦後累計が971名を数え、県内一位となりました。しかし今年の東大合格者はこの7年中最も最少の18名となり、公立高校では日比谷(53) 都立西(33) 千葉(32)

岡崎(26) 旭丘(23) 浦和(22) 岐阜(21) 都立国立(20) 横浜翠嵐(20) に続き、第10位。昨年の四位から大きく後退しました。今年の日比谷、都立西、一貫校などの増加がみられます。また他大学で増加したのは茨城大(15↓16)、大阪大(3↓5)などに限られます。

入試年度 大学	平成28年		平成27年		平成26年		平成25年		平成24年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
北海道大	11	8	4	2	5	1	4	2	9	5
東北大	12	6	24	11	20	11	19	9	20	15
茨城大	16	15	15	11	9	8	13	5	7	6
筑波大	46	37	57	40	53	33	42	25	33	23
千葉大	9	7	10	7	12	5	10	4	12	8
御茶ノ水女子	7	5	7	6	3	3	7	4	2	2
東京大	18	7	23	15	21	8	24	13	22	13
東京外語大	2	2	2	2	6	2	4	2	3	2
東工大	2		2	1	5		4	3	8	6
一橋大	2		3	1			1		7	2
横浜国立	3	3	6	5	2	1	4	2	5	2
名古屋大	2		5	3	2	1	4	2	3	2
大阪大	5	2	3	3	2	1	2	1	6	3
京都大	3	1	6	5	6	1	2	1	6	
九州大					1	1			3	1
その他	35	19	37	16	33	13	41	13	20	17
国立大計	173	112	204	128	180	89	181	86	166	107
公立大計	3	2	13	11	8	3	6	1	10	8
国公立大計	176	114	217	139	188	92	187	87	176	115
国公医科	17	6	22	7	17	4	17	5	14	7
防衛医科	1		1	1					2	
その他	2	1	7	4	3	2			3	2
大学校計	3	1	8	5	3	2	0	0	5	2
入試年度 大学	平成28年		平成27年		平成26年		平成27年		平成26年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
青山学院大	17	10	17	12	21	9	15	10	20	10
学習院大	9	4	15	9	6	4	14	10	18	8
慶応大	25	7	43	19	40	10	44	21	52	21
国際基督教大	3	3	1		3	3	5	3	7	3
上智大	9	6	18	10	24	8	17	6	23	8
中央大	30	13	27	13	45	23	22	4	27	10
津田塾大	5	4	7	5	1	1	1		2	2
東京女子大	5	1	8	7	5	5	7	6	8	4
東京理科大	73	32	95	40	113	24	55	24	74	30
日本女子大	6	4	20	13	22	18	19	14	20	11
法政大	34	18	38	24	29	16	33	16	28	12
明治大	52	32	67	24	73	22	70	28	70	30
立教大	19	15	29	17	27	15	28	13	64	41
早稲田大	55	31	68	29	84	19	73	27	71	20
その他	190	98	205	104	214	120	128	59	162	64
私立大計	532	278	658	326	707	297	531	241	646	274
総計	728	399	905	477	915	395	735	333	841	398

進修同窓会だより

平成29年11月18日(土)に120周年の記念式典が開催されます。その記念事業に向けて募金活動が行われています。各回生毎の募金成績は次のとおりです。

金額では高4回(691万円)、中40回(606万円)、高3回(527万円)、高18回(216万円)です。募金者人数では高18回(115人)が一位以下の高8回(77人)、高9回(49人)を大きく引き離しています。総額は5200万円と、まだ目標の8000万円に対し3000万円程足りません。更なる募金活動の活性化が望まれます。

来年の進修同窓会総会、60周年・50周年・40周年・25周年・15周年記念祝賀会は平成29年4月9日(日)です。

東進会会長

飯塚哲哉(昭和41年卒)



# 新企画 リレー放談(第一回)

## 「つなぐ」に続いて「絆」

花上 克宏(昭和50年卒)

20 回連載された高山了さんの「半了のささやき」の最終回のテーマは「つなぐ」でした。今回、新企画の「リレー放談」もまさに同窓生を会報「東進」でつないでいくことになり、楽しい企画になるのではない、第一回を引き受けました。

私が多趣味である？という所以は、同窓会もそうですが、幸いにもいろんな人に巡り合える、そんな星の下に生まれているのかなと思っ

まずラグビー。運動が好きだったので、入社後始めました。新日鉄本社ラグビー部のメンバーと縁があり、釜石遠征にも参加させていただきました。日本選手権七連覇、日本代表キャップ 26 の千田さんとお話する機会があり、「千田さんはどうして引退されないのですか？」と質問したところ、「ラグビーが好きで、受け入れてくれる仲間がいればやめる必要ないじゃない」と言われたので、59 歳になった今でも続けています。

写真は、会社のラグビー部、流通経済大学のグラウンドで撮影しました。人数が足りないときには、人数合わせのために立っているだけですが、



現役の学生との試合にも出場することもありません。最良学生チームは、筑波大学、流通経済大学。仲間も段々増えて、昨年のワールドカップイングランド大会では、南アフリカ戦の歴史的な勝利を現地の競技場で観戦することができました。



写真は、三日後のスコットランド戦開始前のもの。歌舞伎ペイントをしたのですが、南アフリカ戦の勝利の影響で多くの取材を受け、翌日のワールドカップの公式ホームページのトップを飾りました。

2019 年には、ワールドカップが日本であります。最近、人気が出てきているはいえ、まだまだ競技人口は少ないです。皆さんも、是非興味を持っていただければと思います。

次に陸上競技。50 歳を前に、フルマラソンを走ろうと、高校時代の友人と始めたのがきっかけ。これがト

リガーとなり、皇居を走るコミュニティグループのトラック&フィールド競技大会にも参加することになりました。写真は、年齢別の 100m に出場した際、タイムが予想以上に悪かったので購入したスパイク。この年齢になって、未経験の陸上競技、しかも短距離用のスパイクを買うなんて、思ってもみないことでした。



日立グループ OB には、日本の陸上競技界の重鎮が多く、2020 年の東京オリンピックに向けて「市民ランナーもトップランナーも一緒に陸上競技を盛り上げよう」というコンセプトで大会も運営しています。オリンピックを目指している選手達と、同じ競技場に立つというのは、不思議な感覚です。

この大会の最終種目にレジエンドリレーがあり、メルボルン、ローマ、東京でオリンピックの三段跳びで活躍された櫻井孝次さん、ミュンヘンで活躍された友永義治さんも出場されました。かなり高齢な筈なのに、

100m を 17 秒くらいで走るのには、驚かされました。

最後にダンス。いろいろ縁あってサルサを踊っています。仲間に助けられながら、お台場の ZEP TOKYO や六本木の Maharaja のステージにも。こんなところにながちやっというのかなと思いつつも、エンジョイさせてもらっています。

ダンスつながり？ということ、第二回リレー放談は、アカンサスクラブ、フェースブックでつながった平成 7 年卒の伊丹牧子さんにバトンタッチ。一人でスタジオを借りてブレイクダンスの練習をしているのですが、その辺のお話も聞かせていただけたらと期待しています。



前列左から 3 番目が筆者



# 平成28年度 総会・懇親会のお知らせ

- ・日時： 平成28年6月12日(日曜日)
  - 11:00 受付開始
  - 12:00 母校弦楽部による演奏
  - 12:20 母校応援指導部による演舞
  - 12:30 総会
  - 13:10 講演
  - 13:40 懇親会
  - 15:30 閉会
  
- ・場所： 学士会館 210号室  
千代田区神田錦町3-28  
03(3292)5936
  
- ・会費： 東進会年会費3,000円 【同封の振込用紙をご利用ください】  
懇親会費7,000円
  
- ・講演： 集積回路：縁の下の力持ち？知の源泉？  
池田 誠氏 (東京大学教授 昭和62年卒)
  
- ・演奏： ピアノと琴  
根木 マリサ氏 (ジャズピアニスト 平成18年卒)  
岩崎 瑤子氏 (箏曲者)
  
- ・当番幹事： 平成5年卒 伊東明彦 鈴木徹  
平成6年卒 五十嵐朝青 大塚淳 白鳥玲子  
堀越智也  
平成9年卒 青山大人 五十嵐立青 石嶋桃子  
藤井麻美子 遊佐敏彦

## 編集後記

はじめまして。初田正雄さん(昭和41年卒)の後を受けて会報「東進」を担当することになりました星川美代子(昭和50年卒)です。

本号では昨年の東関東豪雨の体験を鶴見さんに伝えていただききました。今でも完全に復旧していません。今でも多くの方々が被災し、ご苦労されています。心をお慰めしています。関東地方の地震に備えて準備をしなければいけないと思いましたが、さて、20回連載された高山了さんの「半了のささやき」に続き、同窓生をリレーでつないでいく「リレー放談」を新たに企画いたしました。いろいろな分野で興味のあるお話が伺えることと思えます。どなたにバトンタッチされるか乞うご期待。

最後に、編集作業は初めてのことばかりで、悪戦苦闘しています。読みやすい紙面づくりを目指していますが、素人ゆえのつたなさには温かい気持ちでお許し願いたいと存じます。